

# 報告書

# 市民まちづくり フォーラム

—知ろう、語ろう、仙台の重要プロジェクト—

仙台市  
The future of Sendai

→ 教育・文化  
Education and Culture  
福祉・防災  
Welfare and Disaster Prevention  
環境・都市  
Environment and Urban Planning  
経済・産業  
Economy and Industry

平成24年

11月4日(日) 13:00~16:30

場所 せんだいメディアテーク 1階  
オープンスクエア



主催：仙台市

総務企画局企画部企画調整課 〒980-8671 仙台市青葉区国分町3-7-1  
TEL.022-214-0001 FAX.022-214-8037 E-mail:som001030@city.sendai.jp

## 仙台市の計画体系

基本構想  
(めざす都市像)

基本計画

復興計画

実施計画(H24~H27)  
(基本計画と復興計画のアクションプログラム)

## 実施計画〈第2章〉重点的な取り組み

### 100万人の復興プロジェクト

- ①津波防災・住まい再建プロジェクト
- ②市街地宅地再建プロジェクト
- ③生活復興プロジェクト
- ④農と食のフロンティアプロジェクト
- ⑤海辺の交流再生プロジェクト
- ⑥防災・仙台モデル構築プロジェクト
- ⑦省エネ・新エネプロジェクト
- ⑧仙台経済発展プロジェクト
- ⑨交流促進プロジェクト
- ⑩震災メモリアルプロジェクト

### 都市像の実現を牽引する重点施策

- ①学びを多様な活力につなげる都市づくり
- ②地域で支えあふ心豊かな社会づくり
- ③自然と調和した持続可能な都市づくり
- ④人をひきつけ躍動する仙台の魅力と活力づくり

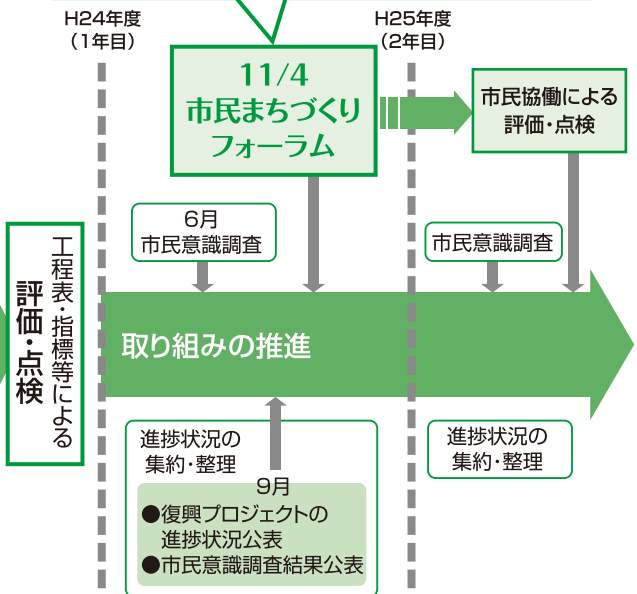
## 市民まちづくりフォーラム【10の重要プロジェクト】

- ①津波から命を守る多重的な減災対策
- ②防災・減災のための新たなルールづくり
- ③東部地域における農と食のフロンティア構築
- ④地域経済の復興とさらなる活性化
- ⑤保育環境の充実による子育て応援社会づくり
- ⑥子どもたちが自ら学び成長する教育環境づくり
- ⑦高齢者が元気に暮らせるまちづくり
- ⑧文化・芸術の振興によるまちづくり
- ⑨地下鉄東西線沿線のまちづくり
- ⑩3Rの推進による資源循環都市づくり

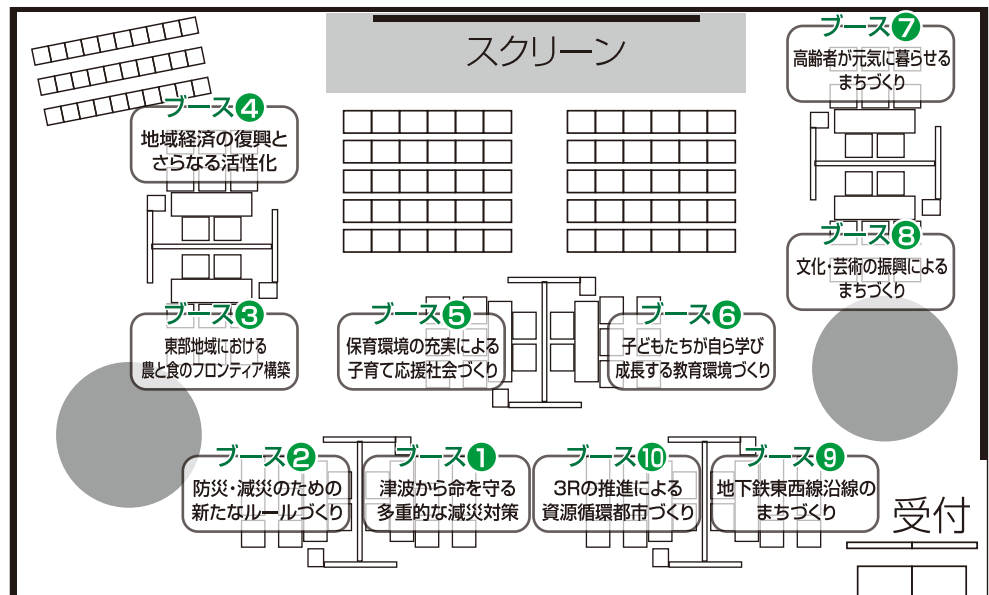
## 仙台市の計画体系とフォーラムの目的

### 市民まちづくりフォーラムの主な目的

- ★市の重要プロジェクトを「知っていただく」
- ★今後の「市民協働による評価」の手法などについて、ご意見をいただく



## 会場レイアウト

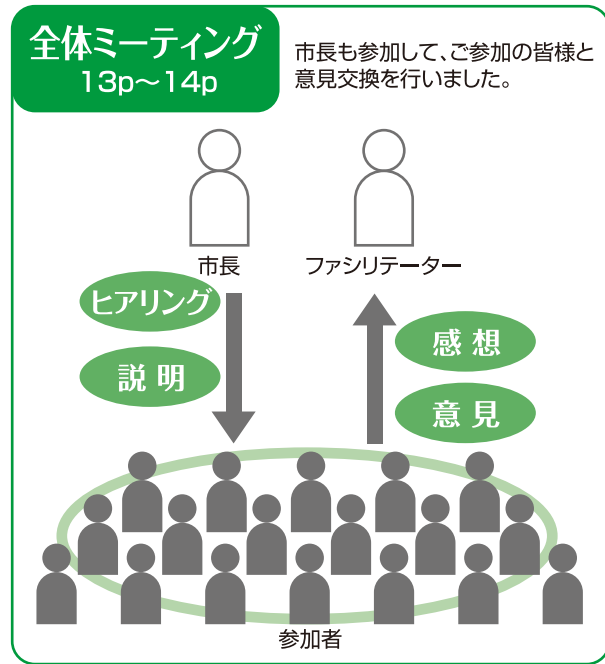
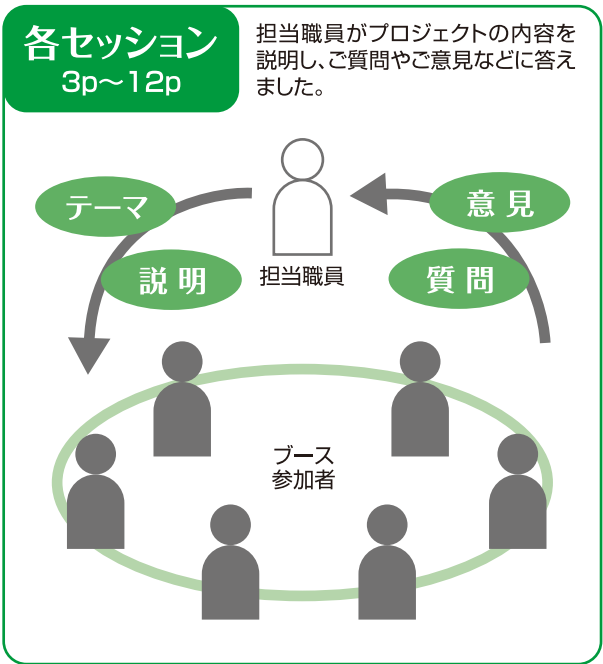


# プログラム

13:00	開会・オリエンテーション
13:10	ファシリテーター紹介
13:15	各ブースへ移動
13:20	<b>セッション①</b>
13:55	休憩・移動
14:00	<b>セッション②</b>
14:35	休憩
14:40	参加セッション以外のブースを自由見学
15:00	<b>セッション③</b>
15:35	『市民参画提案シート』記入・移動
15:45	<b>全体ミーティング</b>
16:30	閉会

## ■セッションごとのタイムスケジュール

15分	施策プレゼン
15分	質疑応答・意見交換
5分	『施策評価シート』記入(セッション終了)



# 津波から命を守る 多重的な減災対策

道路のかさ上げや、津波から避難するための施設や避難道路、津波情報伝達システムなど、津波から命を守る対策をテーマにお話ししました。

## 【主な説明内容】

- 東部地域は、堤防や防災林、県道のかさ上げなどによる多重防御という考え方で津波被害を軽減させることとしています。
- また、津波避難施設や避難道路を整備し、「津波から命を守る」ための対策に取り組んでいます。津波避難施設は、地震発生後45分以内で高所まで移動することを前提に、整備場所等の検討を進めています。
- 施設整備と合わせ、地域の避難計画づくりや避難訓練の実施など、日頃からの取組みを地域の皆様と一緒に考えていきます。

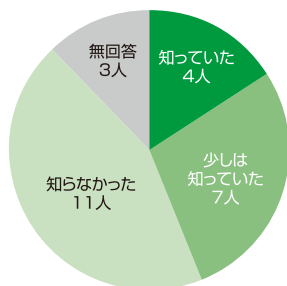


## 【主な質疑応答・意見交換】

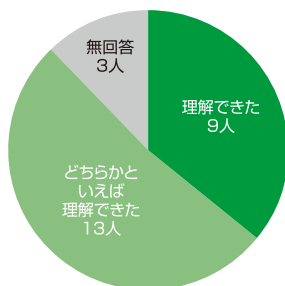
- 参加者:** かさ上げ道路は、歩行者なども避難に使えるようにすれば良いのではないかと。
- ⇒市: 歩行者の安全確保の視点といった課題もありますが、貴重なご意見として今後の検討の中で考えていきたいと思えます。
- 参加者:** 避難場所や所要時間など、避難行動を明確に示してほしい。
- ⇒市: 各地域での避難行動を明確にするため、今後、住民の皆様へ避難ルール等をお示ししながら、地域ごとの避難計画を作っていくこととしています。その参考となるよう、今年度、津波避難施設の整備に関する基本的な考え方をまとめます。
- 参加者:** お年寄りなどの避難に活用するため、地域にリヤカーを常備すべき。
- ⇒市: 地域で助け合いながらの避難を考えていく際の貴重なアイデアとさせていただきます。

## セッション参加者からのアンケート結果（「施策評価シート」より） 参加人数／25人

### ■ 施策の認知度



### ■ 施策の理解度

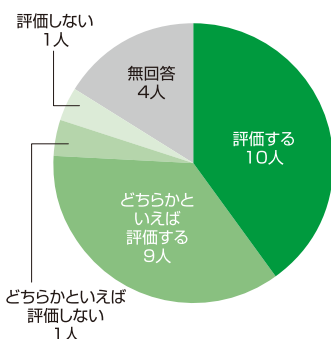


### ■ 施策に対する意見・提案

#### 【主な意見・提案】

- 意見:** 地域住民が意識改革をしなければ減災にはつながらないので、自分の身は自分で守るのが当然という考えを地域のコミュニティで周知させるべき。
- 意見:** 海は大切な観光資源でもあるので、夏など人が多くなった時の対策も考えてほしい。
- 意見:** 地域防災計画との整合を図ってほしい。

### ■ 施策への評価



#### 担当職員の感想

市民の方に、施策に興味を持って聞いていただくにはどうすべきか学ぶことができました。

#### 【市の考え】

地域の方々がスムーズに避難できるよう、津波避難施設や「避難の丘」などの整備を行います。また、地域ごとの避難計画づくりや避難訓練の際に、避難ルールをわかりやすくお示しするなどの支援も行います。

これらについては、今年度策定する地域防災計画との整合を図りながら進めていきます。



テーマ  
2

# 防災・減災のための 新たなルールづくり

「地域防災計画」の見直しや、地域ごとの避難所運営マニュアルの作成など、震災の教訓を踏まえた新しいルールづくりをテーマにお話ししました。

## 【主な説明内容】

- この度の震災では、現行の本市の防災計画の想定を超えた規模だったこともあり、充分な対応ができなかった部分もありました。
- 防災計画の見直しには国や県の検討の方向を加味することや、多方面の関係機関との調整に時間が必要なため、本市独自で取り組めるところから順次取組みを進めています。
- 避難所運営では多くの課題が明らかとなりました。行政だけでは対応が困難でしたので、市民の方々にどのようにご協力いただくかが鍵となります。
- 防災意識を高めるための啓発活動にも、さらに力を入れていきます。



## 【主な質疑応答・意見交換】

参加者：市外からの観光客などへの津波避難対策はどう考えているか。

⇒市：屋外スピーカーや携帯電話への緊急速報メールなどによる情報発信、避難施設や避難道路へのわかりやすい案内表示など、ハード・ソフトを組み合わせたい対策を進めます。

参加者：地域の被災者と帰宅困難者の避難対策は分けて考えるべき。

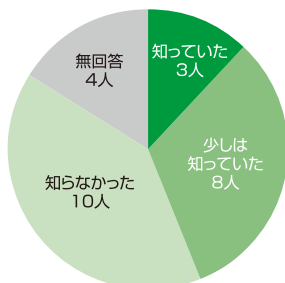
⇒市：今回の震災でも課題になった点ですので、帰宅困難者向けの一次滞在場所を確保しておくなど、個別の対策を定めていきます。

参加者：災害時要援護者対策については、登録者個々の支援計画を作るようなところまで力を入れてほしい。

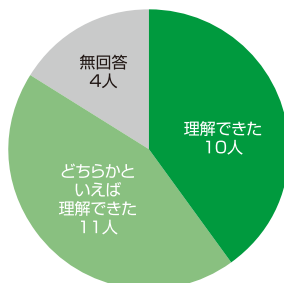
⇒市：具体的な支援内容等については、避難時だけでなく避難所での支援も含め検討していきます。

## セッション参加者からのアンケート結果（「施策評価シート」より） 参加人数／25人

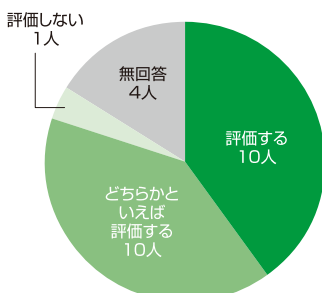
### ■ 施策の認知度



### ■ 施策の理解度



### ■ 施策への評価



### 担当職員 の感想

市民の方に自分で説明して、質問に直接お答えする機会は少ないので、充実した時間となりました。

### ■ 施策に対する意見・提案

#### 【主な意見・提案】

意見：仙台市が震災の経験に基づいて策定した計画が全国に広がれば理想だと思う。

意見：マニュアルづくりをしておけば、市民と話し合う機会もあり、臨機応変に対応できるので、良い施策だと思う。

意見：ルールを市民に知ってもらうまでが大変だと思う。仙台市のルールを市民に植え付けるため、たくさんアプローチしてほしい。

#### 【市の考え】

新たな仙台市地域防災計画は、「自助・共助」と「公助」の協働による、全市一丸となった災害対策を基本理念としていますので、ホームページなどで公開していくことはもちろん、各種マニュアルの作成や防災訓練などの機会に、市民の皆様と防災・減災対策についての話し合いや交流の場を設けるなど、顔の見える関係づくりを進めていきます。

# 東部地域における 農と食のフロンティア構築

甚大な被害を受けた東部地域における新たな農地の整備や、収益性の高い農業経営の実現など、復興計画にかかげた「農と食のフロンティア」づくりをテーマにお話しました。

## 【主な説明内容】

- 津波によって壊滅的な被害を受けた本市の食料基地である東部地域を、農地の大区画化や集約化などにより、「農と食のフロンティア」として復興します。
- がれきの撤去はすでに終わり、内陸側から順次除塩工事を行っています。大規模ほ場整備は国が主体となって進めています。
- 市場競争力をもった作物の生産・商品開発・新サービスの提供などの6次産業化や、農商工連携をさらに推進していきます。



## 【主な質疑応答・意見交換】

参加者：集落営農などの農地集約・集積について、現状と今後の予定はどうなっているのか。

⇒市：それらを進める仕組みについて、地域の実情を考慮しながら検討しているところで、現在進めている大規模ほ場整備に合わせ推進していきます。

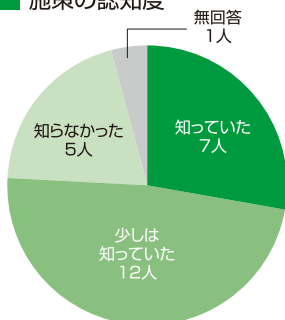
参加者：特に野菜については、大規模な水耕栽培だけでなく、旬のおいしさを生かしていくという視点も忘れてほしい。

⇒市：これまでも地産地消は重要施策に位置づけてきました。地域の方々に地元の畑で生産された旬の野菜をたくさん食べていただくためのPR活動を行っています。

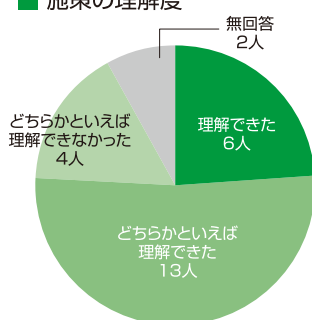
参加者：担い手を育てていくためには、農業が若い人にとっても魅力的で、それで生活が成り立つといった環境づくりが必要。（ご提案）

## セッション参加者からのアンケート結果（「施策評価シート」より） 参加人数／25人

### ■ 施策の認知度



### ■ 施策の理解度



### ■ 施策に対する意見・提案

#### 【主な意見・提案】

意見：土地所有者と担い手のマッチング、集団営農についての現地ヒアリングなどを早急に進めていただき、市民に見える形で公表してほしい。

意見：6次産業化はこれからの日本、特に被災地に必要になるので、公的なフォローを厚くしてほしい。

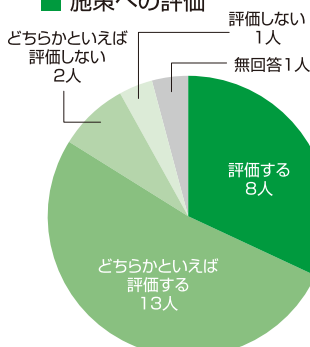
意見：今後、さらに増加すると思われる離農者対策についても並行して考えるべき。

#### 【市の考え】

農地の集積については、農地を貸し出す方への国の支援制度を活用しながら、農業者との話し合いなどを通して農地利用に関する計画づくりを進め、その概要について公表します。

また、6次産業化を希望する農業者の方に対しては、必要な機械・器具等への補助や専門家派遣を行うなどの支援をしていきます。

### ■ 施策への評価



#### 担当職員 の感想

普段、仕事に関係する農家の方から意見を聞くことはあっても、一般の方から意見を聞く機会が少ないので、とても勉強になりました。

テーマ  
4

# 地域経済の復興と さらなる活性化

地元企業への支援や、中心部の商店街のにぎわいづくり、復興特区制度を活用した産業の支援など、地域経済の復興・活性化をテーマにお話しました。

### 【主な説明内容】

- 震災からの復興には、雇用の拡大にもつなげる地域経済の振興が欠かせません。
- 本市は今年度、経済振興のための予算をおよそ100億円計上し、「事業拡大」「にぎわい創出」など4つの合言葉のもと、様々な事業を行っています。
- 販路の拡大に向けては、新たに設置した東北復興ビジネスマッチングセンターを中心とした仕組みで、首都圏の企業との新規取引を促進します。
- 復興特区制度を活用した新たな企業誘致にも取り組んでいます。



### 【主な質疑応答・意見交換】

参加者：東北の他県も大変なので、ろっけんパークのような取組みはどんどん進めてほしい。

⇒市：東北全体の経済が元気になることが仙台の経済振興にもつながります。今後も、他の地域との連携や役割分担を意識して取り組んでいきます。

参加者：東北復興交流パークのような取組みは良いと思うが、地域外への情報発信がもっと必要。

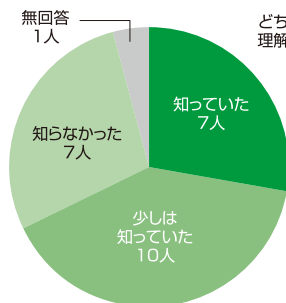
⇒市：市政だよりのような以前からの手法だけでなく、地域の事業者団体の方々なども協力して、PRについてさらに工夫していきたいと考えています。

参加者：東西線開業や地下鉄へのSuica導入といった動きと、中心部活性化策との連携は考えているのか。

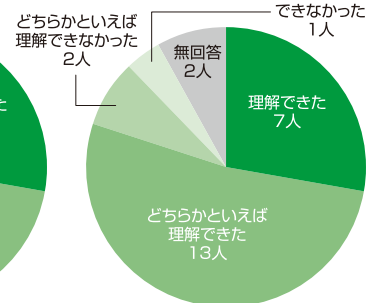
⇒市：例えば（仮称）一番町駅周辺の商店街と連携した企画など、中心部商店街にさらなる賑わいをもたらすような取組みを検討しています。

## セッション参加者からのアンケート結果（「施策評価シート」より） 参加人数／25人

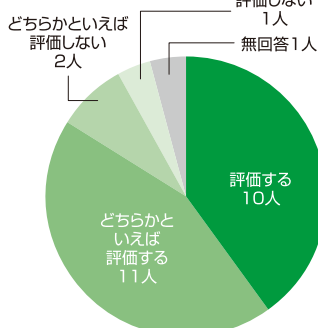
### ■ 施策の認知度



### ■ 施策の理解度



### ■ 施策への評価



### 担当職員 の感想

説明内容以外の施策に関してもご意見ご提案をいただき、大変参考となりました。

### ■ 施策に対する意見・提案

#### 【主な意見・提案】

意見：なびつく、ろっけんパーク（特に創業スクエア）は非常に良いので全国にPRしてほしい。

意見：東北6県をまとめて引っ張ってほしい。平等ではなく、仙台に一点集中して引っ張らないと成功しないと考える。

意見：アジアや海外への発展も視野に入れてほしい。

#### 【市の考え】

ろっけんパークなどについては機会あるごとに積極的にPRしていきます。また、東北の自治体と積極的に連携しながら、東北復興の牽引役としての役割を果たしていきたいと考えています。

さらに、拡大する海外市場を考慮しながら、地域企業の国際展開支援や外資系企業の誘致などにも取り組んでいきます。



# 保育環境の充実による 子育て応援社会づくり

増え続ける保育ニーズに対応するための保育所整備や、せんだい保育室の充実、幼稚園を活用した保育サービスの提供などをテーマにお話しました。

## 【主な説明内容】

- 本市では、平成元年以降、就学前児童数が減る傾向にありますが、保育所入所を希望する児童数は増えており、施設整備が需要に追いつかない状況です。
- 一方で、待機児童対策には、保育所需要の地域的な偏りや、3歳未満児の待機者が多いなど様々な要素があり、施設整備を進めるだけでは解消できません。
- そこで、施設整備の検討だけでなく、幼稚園預かり保育や保育ママ制度など、様々な保育サービスの拡充による総合的な取組みを進めています。



## 【主な質疑応答・意見交換】

参加者：保育ママ制度を初めて知ったが、仙台市が始めたものなのか。

⇒市：本市が初ではありませんが、全国的には早い方で、県内では最初に平成10年から実施しています。

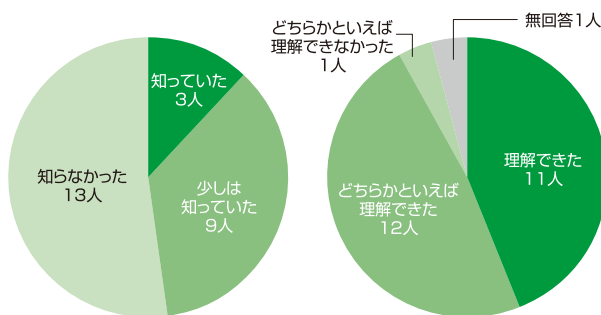
参加者：認可外保育所もたくさんあるのに、認可保育所の希望者が多いのは費用の問題か。

⇒市：そういう面もあります。認可外保育所は、せんだい保育室など一部を除き、基本的に保護者からの保育料のみで運営されているため、比較して保育料が高めとなっています。

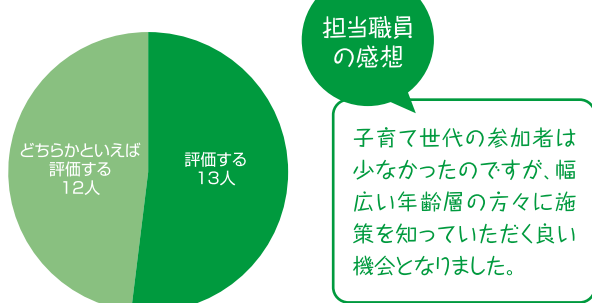
参加者：例えば、市内の個人病院などで空き室があるところに協力してもらって、保育施設を増やしてはどうか。(ご提案)

## セッション参加者からのアンケート結果（「施策評価シート」より） 参加人数／25人

### ■ 施策の認知度



### ■ 施策への評価



### ■ 施策に対する意見・提案

#### 【主な意見・提案】

意見：入所児童数が定員に満たない保育所に対する対応策はあるのか。例えば、定員を超えている保育所と連携させて有効に活用することは可能か。

意見：保育園、幼稚園など施設の支援だけでなく、自宅での保育への支援も考えた方が良い。

意見：昔に比べて行政サービスが進化しているにもかかわらず少子化に歯止めがかからないのは、子を産む親の意識の問題か、経済的な問題か、根底にあるものを見直さなければならないと考える。

#### 【市の考え】

保育所への入所がかなわず、入所待機となるご家庭に対しては、入所枠に空きのある保育所をご紹介しますなどの取組みを行っています。

また、子育て家庭に対する経済的負担の軽減、ひとり親家庭などへの支援、子どもと一緒に出かけやすい環境の整備など、総合的な支援を引き続き行っていきます。



テーマ  
6

# 子どもたちが自ら学び 成長する教育環境づくり

子どもたちの「確かな学力」を育むための、仙台市独自の学力検査や、小・中学校9年間を通した教育モデルづくり、地域ぐるみでの教育環境づくりをテーマにお話ししました。

## 【主な説明内容】

- 学校教育では、子どもたちの学力向上に向け、基礎的知識にとどまらず応用力や学習意欲の向上にも取り組んでおり、退職した校長の派遣や、小学校高学年での教科担任制、中学1年の数学での少人数学習など、本市独自の取り組みを行っています。
- 小学生対象の職業講話や中学生による職場体験により、将来の夢や自立に向けてイメージを持てるようにする「自分づくり教育」にも取り組んでいます。
- 学校だけでなく、地域ぐるみで子育てをするため、地域住民と学校で組織する「学校支援地域本部」を地域ごとに設置していきます。



## 【主な質疑応答・意見交換】

参加者：社会人として必要になる人格の形成についても、学校教育の中で力を入れてほしい。

⇒市：「自分づくり教育」のなかで、子どもたち自身が将来の理想像とそのために行うべきことを考えていくという教育を実践しており、今後も重点的に取り組んでいきます。

参加者：自分の経験を生かして学校のお手伝いをしたい。

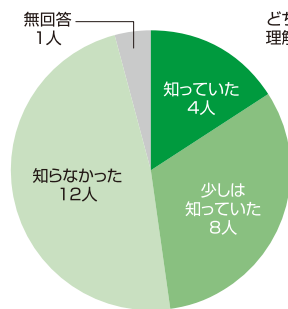
⇒市：「学校支援地域本部」の仕組みにより、地域の方々のお力を生かしていけるよう取り組んでいきます。

参加者：子どもたちに「共生」を理解してもらうためにも、高齢者や障害者が学校の支援に関わっていくような取組みもあったら良いと思う。

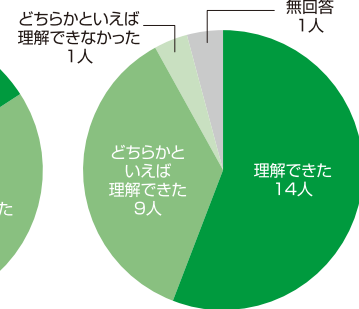
⇒市：地域のNPOや事業者、大学等とも連携して、そのような取組みも進められるようにしていきたいです。

## セッション参加者からのアンケート結果（「施策評価シート」より） 参加人数／25人

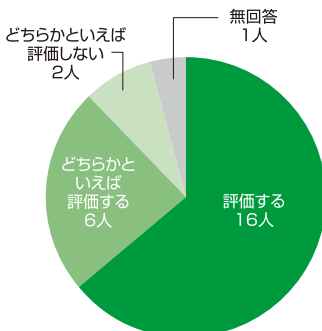
### ■ 施策の認知度



### ■ 施策の理解度



### ■ 施策への評価



### 担当職員の感想

幅広い年齢層の方々の意見を直接伺うことができた有意義なイベントとなりました。

### ■ 施策に対する意見・提案

#### 【主な意見・提案】

意見：子どもが社会に出て成功するための教育も良いとは思ったが、ほとんどの子どもが高校に入るので、学力の向上も重要である。

意見：地域の人との関わりを強化し、子ども達にコミュニケーション力、誰かのために働くということを学んでほしい。

意見：大学と地域の小中学校が連携して、大学生が地域に入っていくことができれば良いと思う。

#### 【市の考え】

子どもたちの将来の可能性を広げるため、確かな学力の育成にも取り組んでおり、さらに、「学校支援地域本部」や「自分づくり教育」などの取組みにより、地域団体や大学、NPO、企業等と連携した様々な関わりを通して、子どもたちに勤労観やコミュニケーション能力などを身に付けさせていきます。

# 高齢者が元気に暮らせるまちづくり

年齢を重ね、さらに元気で生きがいをもって暮らすための介護予防や、介護が必要となった方々のための福祉サービスなどをテーマにお話しました。

## 【主な説明内容】

- 本市の高齢者数はここ10年間毎年5~6千人ずつ増加し、介護保険給付額は平成12年度の約2.6倍となっています。介護保険の財源の約半分は、40歳以上の方の保険料で、市の負担も10%を超えています。
- 本市では、『高齢者保健福祉計画(介護保険事業計画)』に基づき、特別養護老人ホームなど介護サービス基盤の整備を行なうとともに、介護が必要な方に質の高いサービスを安定的に提供できるよう取り組んでいます。
- 介護予防の取組みも重要で、地域包括支援センターでは高齢者の方のご相談に応じたり、各種教室のご案内などを行っています。



## 【主な質疑応答・意見交換】

参加者：地域の災害時要援護者対策については、高齢者や障害者といった分け方をしないで、連携して取り組んでほしい。

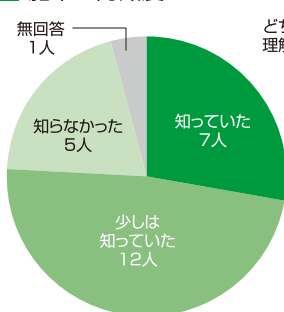
⇒市：町内会、民生委員の方々や、地域包括支援センターなど関係者が情報を共有し、協力して取り組んでいけるよう支援していきます。

参加者：今の高齢者は70歳や80歳を過ぎても元気な方が多いので、65歳以上という高齢者の定義自体見直すべきではないか。(ご提案)

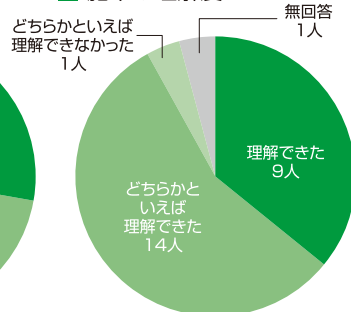
参加者：これからの時代は、高齢者と子どもなど異世代間の交流の場を増やしていくべきで、それが相互の刺激や学びなどにつながると思う。(ご提案)

## セッション参加者からのアンケート結果(「施策評価シート」より) 参加人数/25人

### ■ 施策の認知度



### ■ 施策の理解度



### ■ 施策に対する意見・提案

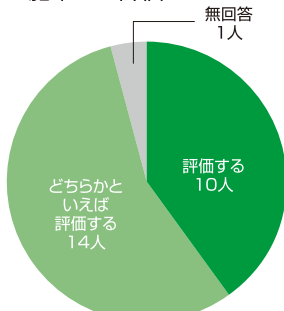
#### 【主な意見・提案】

意見：単に介護が必要不必要ではなく、高齢者も社会に参画できることをめざすべき。

意見：在宅サービスに対する支援が少ない印象を受けた。施設に入居されない人にも手を差し伸べてほしい。

意見：一人暮らしや老々介護の家庭を把握し、その人達への日常的な対応をしているのかわからなかった。

### ■ 施策への評価



#### 担当職員 の感想

普段気付かない視点からのご意見もいただき、広い視野を持って施策を進めることの必要性を感じる良い経験となりました。

#### 【市の考え】

本市の高齢者福祉の柱に、「生きがいづくり・社会参加の促進」と「地域の支え合いへの支援」を掲げ、社会参加や在宅生活の支援に積極的に取り組んでいます。

また、毎年度の民生委員児童委員の方々への訪問による「在宅高齢者世帯調査」などを通して地域の高齢者の方々の状況を把握し、住み慣れた地域で安心して住み続けられるような施策への反映に努めています。

テーマ

8

## 文化・芸術の振興によるまちづくり

国際音楽コンクールや「せんくら」、支倉常長を題材としたオペラ「遠い帆」など、「楽都仙台」の取り組みを紹介しながら、文化を生かしたまちづくりをテーマにお話ししました。

### 【主な説明内容】

- 本市の文化振興には様々な分野がありますが、今回は「楽都仙台」として、音楽を活用した取り組みを紹介します。
- 仙台国際音楽コンクールは3年ごとに開催する若い音楽家のための世界的なコンクールであり、多くの市民ボランティアが運営を支えています。
- 仙台クラシックフェスティバルは、プロの演奏に気軽に触れられるよう、短い公演時間、低廉な料金設定、年齢制限のない公演の実施などの工夫をしています。
- 本格的なオペラや仙台フィルなども都市の魅力を高めてくれるものであり、交流人口の拡大にもつながっています。



### 【主な質疑応答・意見交換】

参加者：仙台フィルによる被災地への復興コンサートは今はやっていないのか。

⇒市：回数は減っていますが、「避難生活でばらばらの人達が集まるきっかけとしたい」といったご要望にお応えするなどの形で現在も開催しています。

参加者：地元の吹奏楽部などの学生・生徒に、有名な音楽ホールでの演奏を経験させるのも良いと思う。

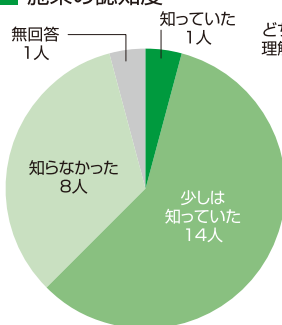
⇒市：子どもに夢を与える貴重な経験になると思います。市民問わずそのような取り組みが広がってほしいです。

参加者：仙台の文化芸術と言えばジャズフェスなど音楽のイメージがあるが、美術や写真など他の分野にも力を入れてほしい。

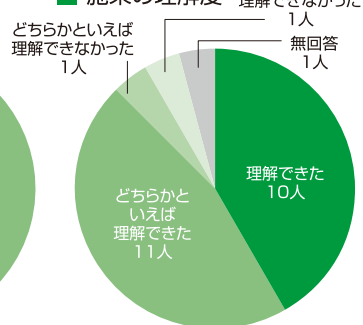
⇒市：本市の事業だけでなく、市民文化事業団でも幅広く文化芸術活動を支援していますので、さらなるPRなども行っていきます。

### セッション参加者からのアンケート結果（「施策評価シート」より） 参加人数／24人

#### ■ 施策の認知度



#### ■ 施策の理解度



#### ■ 施策に対する意見・提案

##### 【主な意見・提案】

意見：効果が見えにくく、予算がカットされそうだと感じていたが、大切な分野だと認識した。

意見：仙台の音楽のレベルが高いことを知らなかったが、そのレベルの高さや県外に対しての広報状況についても聞きたかった。

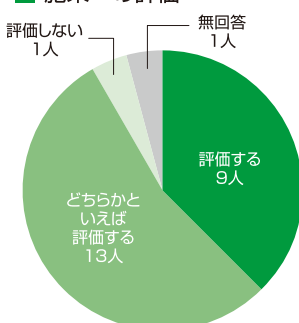
意見：子どもたちに地域の伝統を伝えたいので、郷土の文化、芸術の振興に対する行政の協力をお願いしたい。

##### 【市の考え】

震災以降、文化・芸術の重要性が改めて認識されてきていることから、今後とも、市民生活を豊かにし、まちの賑わいを創り出す文化振興策を推進し、内外に発信していきます。

また、地域にある文化的な資源の発掘・活用を図り、未来を担う子どもたちが誇りを持てるようなまちづくりをめざしていきます。

#### ■ 施策への評価



#### 担当職員 の感想

普段の業務では接することの少ない方々と直接お話しでき、良い経験になりました。今後は、より双方向の議論ができれば良いと思いました。



# 地下鉄東西線沿線のまちづくり

平成27年度に開業を予定している地下鉄東西線の沿線の資源や地域特性を活かした様々な取組み、市民協働による沿線まちづくりなどをテーマにお話しました。

## 【主な説明内容】

- (仮)動物公園駅から(仮)荒井駅までを13駅で結ぶ地下鉄東西線が開通すると、南北線と東西線それぞれの端末駅を30分程度で移動できるようになります。
- 本市では「東西線沿線まちづくりの基本方針」を策定し、地域と連携・協力しながら、各駅の地域特性を活かした市民協働での沿線まちづくりを進めています。
- 例えば、(仮)動物公園駅では、地元町内会、八木山ベニランド、東北工業大学、八木山動物公園などからなるまちづくり研究会を立ち上げ、駅前地区の顔づくりやコミュニティ機能強化に向け取り組んでいます。



## 【主な質疑応答・意見交換】

参加者：開業年度は震災から5年の節目でもあり、復興を象徴するような取組みとしてほしい。

⇒市：本市が誘致をめざす国連防災世界会議を開催するなど、世界にアピールできるような事業も実現できるよう取り組んでいきます。

参加者：南北線も含め、新幹線からの乗り継ぎ時間短縮や案内サインの充実などを図ってほしい。

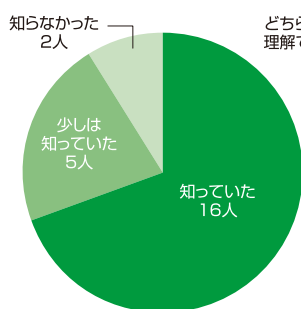
⇒市：JR仙台駅から東西線や南北線に乗り継ぎできる西口地下道へのわかりやすい案内誘導やエスカレーター整備などにより、利便性の向上を図ります。

参加者：駅周辺も含む案内表示には外国語表記も取り入れるなど、国際都市にふさわしいものとしてほしい。

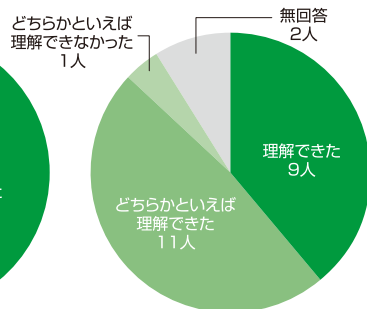
⇒市：周辺の様々な地域資源を十分に活かせるよう、言語表示や観光にもつなげられる回遊ルートのご案内など、効果的なPRについて検討を進めます。

## セッション参加者からのアンケート結果（「施策評価シート」より） 参加人数／23人

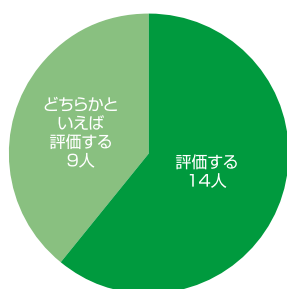
### ■ 施策の認知度



### ■ 施策の理解度



### ■ 施策への評価



### 担当職員 の感想

東西線沿線以外の方々にも施策を知っていただく良い機会になりました。年齢や職業を問わず、様々な方からまちづくりについての意見を伺うことができ、大変参考になりました。

### ■ 施策に対する意見・提案

#### 【主な意見・提案】

意見：各駅の地域特性を活かし、バランスの取れたまちづくりをしてほしい。

意見：観光の目玉を設置し、賑わい演出は駅周辺だけでなくつながりを考えていく必要がある。

意見：交通体系の整備は都市の発展に不可欠なので、各組織や関係団体との連携を密接にしてがんばってほしい。

#### 【市の考え】

今後も、地元の町内会や事業者等と協力して、地域特性を活かした沿線まちづくりを進めます。また、国内外との交流を拡大するため、例えば、(仮)国際センター駅周辺にコンベンション機能の充実を図るなど、様々な都市機能の集積と連携により、本市にとって魅力的な新しい都市軸となるよう取り組んでいきます。



テーマ  
10

## 3Rの推進による 資源循環都市づくり

ごみ量の推移や今後の予測、より一層のごみ減量・リサイクルのための3R(※)の推進をテーマにお話ししました。(※)リデュース:減らす、リユース:繰り返し使う、リサイクル:再生して使う

### 【主な説明内容】

- リサイクルへの取組みや様々な啓発活動が功を奏し、平成11年からごみ排出量は減少傾向にありました。
- しかし、東日本大震災によりごみが増加し、リサイクル率も低下しました。震災前と比較しても1人当たりのごみ排出量が多い傾向が続いており、3Rの取組みが改めて重要となっています。
- 家庭から出るごみの約44%がリサイクル可能で、特に紙類のリサイクル推進が課題となっています。



### 【主な質疑応答・意見交換】

参加者:ごみ総量を10%減らすということだが、震災で発生したがれきを含むのか。

⇒市:がれきは含みません。がれき以外のごみも増えているので、その減量をめざすものです。

参加者:3Rという言葉は高齢者の人などには伝わりづらい。日本語のほうが良いのでは。

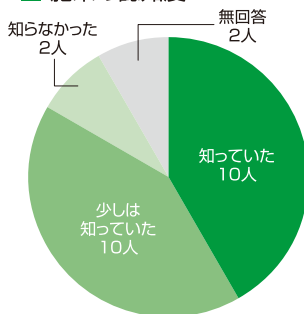
⇒市:「リデュース」「リユース」は確かにそう思いますので、説明に工夫をしていきたいです。

参加者:「リサイクルで、ごみ袋が年間〇〇円分節約できます」とPRするほうがアピールできるのでは。

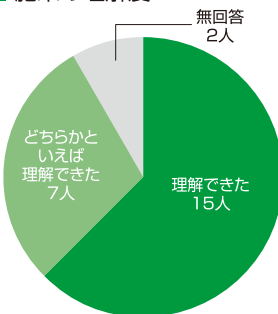
⇒市:そのような観点のPRを検討していたところで、ぜひアイデアとして活用させていただきます。

### セッション参加者からのアンケート結果(「施策評価シート」より) 参加人数/24人

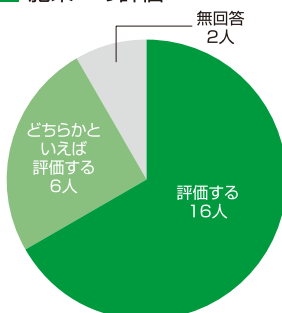
#### ■ 施策の認知度



#### ■ 施策の理解度



#### ■ 施策への評価



#### 担当職員 の感想

市民の方々と近い距離で意見交換できたのは貴重な経験でした。資料や説明内容などをさらに工夫して、今後の業務に生かしていきたいです。

#### ■ 施策に対する意見・提案

##### 【主な意見・提案】

意見:ごみを削減する取組みもがんばってほしい。

意見:ワケル君などインパクトの強いキャラクターを使ったのは大正解。リサイクルした後の利用先の拡大(出口側のケア)についてもこれから気をつけようと思った。

意見:「実際にこのくらいの成果がある」という具体的な数字を出して市民のやる気につなげてほしい。どの程度効果があるかわからないと、やっている市民も不安だと思う。

##### 【市の考え】

3Rのさらなる推進に向けては、市民・事業者の皆様のご協力が欠かせません。親しみやすいキャラクター、具体的な指標、分別後のごみの行方など、わかりやすく実践に結びつきやすい広報・啓発活動となるようさらなる工夫を重ね、今後も皆様とともに3R推進に取り組んでいきます。

## 申込時に人気が高かった3つのテーマについて

### 【テーマ2】 防災・減災のための新たなルールづくり

#### 【主な意見】

- ルールについて、とても凝っていてよく考えてある感じだが、それを市民に知ってもらうことに力を入れる必要がある。
- 市政だよりなどで計画の内容を市民に周知することが大事で、それで市民にも参画する意識がでてくると思う。
- マニュアルの見直し作業が遅すぎると感じる。

#### 【市長のコメント】

地域防災計画の見直しをできるだけ急がなければならないというのはそのとおりです。今後、市政だよりや説明会などを通じて、できるだけ多くの方から計画に対するご意見をいただきたいと思います。震災対応で一番大事なことは、計画を作ることよりも「共有していただく」ことですので、その視点を忘れずに取り組んでいきます。



### 【テーマ4】 地域経済の復興とさらなる活性化

#### 【主な意見】

- 仙台には多くの大学があり、それも魅力の一つだと思うので、若者のためになる施策を実施し、それを知ってもらうことも大切。
- 地元の経済・金融業界の方でも市の経済政策を知らないということがあるので、そういったことがないようにしてほしい。
- 冬季オリンピックのような大きなイベントを開催し、観光客を呼び込むことが地域活性化につながると思う。

#### 【市長のコメント】

若い方々に市の取り組みを知っていただくには、時代に合わせて広報媒体を工夫していくことが必要で、市の伝えたい施策があらゆる市民の皆様に伝わるよう努力を続けなければならないと考えています。また、東北六魂祭をきっかけとした東北の他都市とのネットワークもできましたので、冬の企画も打ち出していくなど、四季を通じてお越しいただけるような取り組みを考えたいと思います。



### 【テーマ8】 文化・芸術の振興によるまちづくり

#### 【主な意見】

- 音楽以外の仙台市の文化・芸術についての取り組みが伝わりにくかった。
- 高齢者も気軽に文化・芸術に触れ合うことができるような環境づくりを考えてほしい。

#### 【市長のコメント】

まんべんなくやっていくよりも、音楽を選択することで仙台の特色を際立たせたいと考えているところですが、文化は大変幅が広いものですので、それらを身近な地域で楽しめるような仕掛けづくりも大切だと考えています。市民の皆様の文化活動の成果を発表するような場や、地域にしながら音楽・美術などに触れ合うことができる機会づくりなどについても努力していきたいと思います。



# ディング

## 市民協働による施策の評価について

### 今回の手法について

#### 【主な意見】

- ブースにいる参加者間で、テーマについて議論できる場もあれば良かった。
- 全体ミーティングで、参加者の関心が高いテーマだけでなく、その他のテーマについても話ができるようにして欲しかった。

#### 【市長のコメント】

職員にとっては大変勉強になったイベントですが、皆様によりわかっていただくためには、資料や説明内容に工夫の余地があると思いました。

今後に向けては、市民の皆様相互の意見交換の場を設けたり、すべてのテーマでのご議論の内容を、参加された皆様に共有していただけるよう工夫するなど、さらにイベントの構成を検討していきたいと思います。

### 市の施策の周知方法について

#### 【主な意見】

- インターネットテレビがはやっているの、それを使ってみれば学生の間でも活発に議論が広がっていくと思う。
- 将来を担う子どもたちに、学校教育の場を利用してまちづくりを考える機会があると良いと思う。

#### 【市長のコメント】

広報については、インターネットの活用など時代に合ったやり方を考えていきたいと思います。

また、学校で、子どもたちが地域のことを考えるプログラムは行われていますが、それが学校の中だけで終わっている部分もありますので、子供たちに自分が社会を変えられることができるという意識を持ってもらえるよう、子どもたちの参画についても考えていきたいと思います。



ファシリテーター  
コメント

## 市民協働による評価について

#### 【主な意見】

- 施策の話聞くことも必要だが、実際に行動することが一番理解しやすいと思うので、市の職員が行っている仕事を体験する場を設けてみてはどうか。
- 専門家も交え、いろんな立場の市民同士が意見交換をする場を設けて、まちづくりにつなげてほしい。

#### 【市長のコメント】

例えば、文化スポーツイベントのボランティアなどを通して市の施策を知っていただいている方も多くいらっしゃいますが、行動する中で市の施策を知っていただくことはとても大切なことだと思います。

また、ある専門的な団体、ある地域といった特定の枠組みの中での意見交換だけでなく、その枠を超えているような立場の方と議論できるような場ということも含め、今後に向けて工夫を重ねていきたいと思います。



ファシリテーター  
足立 千佳子さん

市職員のみなさんは、目で見て聞いてみて取組みをご理解いただけるよう資料を準備し、心をこめて説明しました。市民のみなさんからは、建設的な意見を交えながらの質問が出され、今後の取組みにぜひ参考にしたいと思われるご意見をたくさんいただきました。

短い時間でしたが、お互いに信頼関係を築き、明日の仙台をどうしたらいいのかと考えることができたことは大変素晴らしいことだと思います。今回の感動を仙台市の施策に取り入れていただきながら、これからも市民のみなさんとの協働で取組みをチェックしていく体制をつくっていただきたいと思います。

## 本イベントへの参加者からのご意見・ご提案(「市民参画提案シート」より)

### (1) 運営面について

#### ① 参加者について

- ・もっと多くの人が参加できるよう企画してほしい。
- ・若い人達(中・高校生)の意見も聞いてみたい。
- ・それぞれのテーマの当事者の参加があったほうが良い。

#### ② 参加テーマについて

- ・3つのテーマだけでなく、他のテーマの話も聞きたかった。
- ・世代ごとのブースがあると、より活発な意見が出ると思う。世代が違いすぎ、意見の幅が大きくとらえにくい。

#### ③ 時間配分について

- ・時間が少なく、説明は万全でも肝心の意見を言う時間がほとんどなかったのが残念。
- ・質問時間が短いので、最初に質問したい人の手を挙げさせて、人数により時間を区切ると良い。

#### ④ 会場の環境について

- ・各ブースで担当者や市民の声が聞こえづらかったのがあったので、改善してほしい。

### (2) 各ブースの説明内容について

- ・各事業の現状の部分をもっと聞きたかった。
- ・全体的に時間が短く、内容が薄い。
- ・事前にテーマ別の資料の配付・閲覧があれば、もっと活発な議論ができたと思う。

### (3) 今後の開催に向けた提案

- ・震災について市民が再認識するためにも、こうしたフォーラムの機会をもっと拡大してほしい。
- ・様々な施策があり、工夫していることはわかったが、もっと大々的に市民にわかるよう報告してほしい。
- ・各市民センターで施策を公開し、討論会を開催してほしい。

## 仙台市から

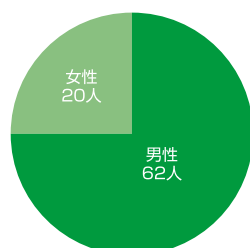
今回のフォーラムは、幅広い世代の方を対象に、短い時間で市の重要な施策を「知っていただく」ための新たな試みとして企画したもので、できるだけ多くの、具体的には10のテーマを設定しましたが、時間の制約などがあり、ご希望の3つのテーマのセッションにご参加いただく形とさせていただきます。

皆様からいただいたご意見にもあるとおり、いくつかの課題も見えてきましたので、これらを参考とさせていただきながら、活発なご議論がしやすい場となるよう、このイベントを進化させていきたいと考えています。

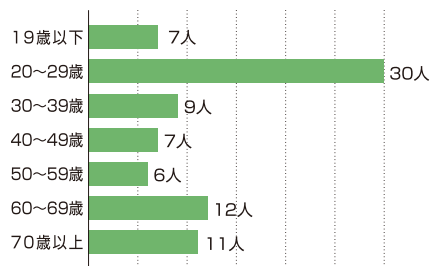
## 参加された方々

参加者合計 / 82人

#### 性別



#### 年齢



#### 職業

